

令和2年3月13日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）和魂洋才の理念に基づく教育について

ICTを導入する以上に、日本語を正しく勉強し、その上でコミュニケーション能力の育成や日本的な自然との共生感、和の心の教育に力を入れることが大事であり、その上で、デジタル教育が必要になると思うが、教育長の所見を伺う。

（答）

新しい学習指導要領では、言語能力の育成につきまして、児童生徒の発達段階を考慮して教育課程全体で行うことが示されており、特に、国語科を要として、小・中・高等学校において、国語を正確に理解する力や伝え合う力を育てる取組を行っております。

また、道徳教育につきましては、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る」ことが示されており、小・中・高等学校の道徳教育や小・中学校社会科、高等学校公民科を中心として、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けさせる取組を行っております。

県教育委員会では、平成15年度から「ことばの教育」に取り組み、コミュニケーション能力の育成にも努めてまいりました。

今後もこれらの取組を充実させていくとともに、ICTを学習のツールとして効果的に活用し、これからの変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力の育成に努めてまいります。